

# IPNU

## キャンパスネット



### 大学院看護学研究科長就任にあたり



大学院看護学研究科長 高山 成子

今年度、研究科長に就任しました。大学全入時代の到来にもかかわらず、卒業したけれど就職難!!という奇妙な実態の中で、国立大学再編の動きが示すごとく、今、より専門性のある、質の高い大学が求められています。この動きは、看護学に対して予算が優先的に分配される、看護学を専門に追求できる、看護学学位を授与できるという特徴をもった単科看護大学の研究科に魅力を感じてきた私にと

とって“追い風”と思えます。

私は赴任して3年目ですが、本学研究科のすばらしさは、看護の研究に対し看護教員だけでなく医学・心理学・工学・薬学など多様な教員が共に深め、大学院生を指導している点です。これこそが単科の看護大学研究科の強みで、このような研究科こそが専門性志向の“追い風”に乗れると確信しています。確信するもう一つの理由、それは実績を残している点です。北陸地方唯一の単科看護大学研究科、専門看護師養成課程をもつ研究科として開設して8年。輩出した修士49名、博士8名は実践家、研究者として活躍し、なかでも専門看護師7名は看護の質向上に大きく貢献しています。

つまり、土台造りはできている。あとは「どう発展させるか!」です。彼ら57名の修了生とネットワークをつくる。そして臨床から遠ざからざるを得ない教員が臨床感覚を刺激され、大学院生に現場還元性の高い研究を指導してゆく。それができるのが本学研究科であり、それが発展ではないかと私は思っているのです。

と言いながらも、自身の力不足のため研究科長として発展への責任を果たせるか不安ですが、土台造りをして頂いた今までの先生方の努力に報いるよう、皆さんと共に、一歩でも前へ進みたいと思っています。

### 目次

大学院看護学研究科長就任にあたり	1	キャンパスライフ	
大学の主な動き		フィールド実習	6
第13回入学式	2	小児看護学実習Ⅰ	6
石川県立看護大学に入学して	2	統合実習B	6
タイ看護大学交流会	3	サークル紹介	
JICA日系研修	3	HSC(Health Support Club)サークル	6
日本老年看護学会第17回学術集会	4	ボランティアサークル	6
オープンキャンパス	4	大学祭のお知らせ	7
2012年度からのカリキュラム改正について	4	大学院紹介	7
第9期卒業生に聞く		地域ケア総合センターから	8
看護師として就職して	5	図書館より	8
助産学専攻科に進学して	5	犯罪被害者支援自動販売機が設置されました	8
看護教諭特別別科に進学して	5	キャンパススケジュール 2012年度後期	8

## 大学の主な動き

### 第13回入学式

平成24年4月6日（金）、石川県立看護大学入学式が挙行されました。谷本正憲知事をはじめ、石川県医師会長、看護協会長、看護大学後援会長のご臨席を賜り、看護学部看護学科90名（1年次生83名、3年次生7名）、大学院看護学研究科（博士前期課程11名、後期課程2名）が晴れて入学を許可されました。

国家斉唱、学歌「地球の子守歌 歌え心安らかに人々が光に包まれるまで」の斉唱に続いて行われた学長式辞で、石垣和子学長は「明るく開放的な校風の中で積極的、自律的に勉学・研究に取り組み、看護専門職としての自覚、知識、実践力を高め、病む人、困難な状況にある人への温かい思いやりと共感を育てたい」と述べられました。次いで、学部を代表して砂田絢乃さん、大学院を代表して南堀直之さんが今後の大学生活への希望と決意を込めて宣誓を行いました。

キャンパスの桜の開花は遅れましたが、今年も期待と希望、決意と喜びに満ち溢れた新しい大学生活がスタートしました。

学生部長 浅見 洋



大学院 入学式



大学 入学式

### 石川県立看護大学に入学して



私は、石川県立看護大学の静かな立地条件に魅力を感じ進学を決めました。実際に入学して大学生活を送っていると、他にもこの大学の魅力をたくさん発見しました。

まず大学としての規模は小さいのですが、学年に関係なく学生同士の交流がとても密であることです。共に看護学を学んでいく上で有益な情報を交換できたり、また学外でも交流できたりすることは大学生活を一層充実したものにしてくれます。

さらに看護学以外の授業が充実していることも挙げられます。この大学を卒業すると多くの人は看護師として長く働くことになると思います。ひとつの仕事はずっと続けていると価値観が偏りがちです。学生時代から様々な分野に目を向ける姿勢を習慣づけることは、より深みのある看護師への成長を促してくれると思います。

4年間の大学生活で得られる教養は、看護師としても人としても、その人格を構成する大事な要因になります。この大学で学ぶことを教養の核とできるような看護師を目指します。

1年 砂田 絢乃



## 大学の主な動き

### タイ看護大学交流会

タイ南部のナコンシータマラート県のボロンマラチオンナニ看護大学のワッタナスリン学長と教員ら 32 名が 2012 年 4 月 3 日（火）に本学を訪問されました。一行はピンクのブレザー姿で、花が咲いたような華やかさに包まれました。両大学長の挨拶をはじめとして、両国の看護大学教育課程のシステムやナコンシータマラート県の特徴、日本の保健統計の概要等についての情報交換がなされました。また、各領域で教員が趣向を凝らして、実習室で家庭訪問の寸劇、老人疑似体験、妊婦体験、災害時の新生児の避難、地域住民への健康教育の説明、スキルラボ室で学生の自学自習の説明、体育館では地域高齢者向けの体力測定方法の実演と説明などを行いました。タイの教員の方々の積極的に質問される姿に、高い関心ぶりが伺われました。学長同士の会話、教員同士の会話、学生による歓迎のギター演奏と歌、最後は人の輪を作って合唱など、事務職員も混じり明るく睦まじい交流の場を持つことができました。今後に向けて両大学は異文化交流および看護学の共同研究などの学術交流の機会をつくれるような発展的な友好関係の実現に期待を表明しました。今回の交流を第一歩に、さらに踏み出せるようにしたいものです。



国際交流委員長 吉田 和枝

### JICA 日系研修

平成 24 年度も JICA 日系研修（パラグアイ共和国、ブラジル連邦共和国）をお引き受けいたしました。テーマは、「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」です。研修終了時の 4 名の研修生の言葉をお伝えします。今後も、互いの国の歴史・文化・社会システムを学びあい、遠くて近い国として友好関係を築き上げられたらと思います。

地域ケア総合センター長 川島 和代

#### 西村 千秋さん

（パラグアイ共和国 ブラジルとの国境アマンバイより、ボランティア）  
「この研修で日本の高齢者施策や施設の設備が整っていることをすごく感じました。たくさんのことを学ぶことができました。これまでの研修生とも情報交換しながら、パラグアイ全体の高齢者福祉が良いものになったらよいと思います。」



防護用具の使用方法の練習中

#### 山岡 久江さん

（パラグアイ共和国 首都アスンシオンより、ボランティア）  
「日本に来て、やさしく迎えてくださり、たくさんのことを教えていただきました。1ヶ月が早かったです。帰国してから学んだことを努力して伝えていきたいです。感謝しています。」

#### 北川 瞳さん

（パラグアイ共和国 ラパスより、学生）  
「私はこの研修を通してたくさんの方と出会い、皆さんに心あたたく迎えてもらい充実した研修を終えることができました。いろいろな講義と現場での実習がつながりながら素晴らしい体験ができました。帰国後は、学んだことを生かしながら、頑張りたいと思います。」

#### 宮本 まゆみさん

（ブラジル連邦共和国、サンパウロより、大学院入学を目指して準備中）  
「介護技術や高齢者の福祉システムの新しい活動、高齢者の家族サポートに関することも学びました。システムに関して、ブラジルはまだたくさんを学んでいく必要があります。これからそれを比較していきたいです。」

## 大学の主な動き

### 日本老年看護学会第17回学術集会

7月14日(土)・15日(日)に金沢歌劇座と21世紀美術館を会場として、本学学長の石垣和子先生が学術集会長を務める日本老年看護学会第17回学術集会が「当事者学としての老年看護学の追究－高齢期を生きる人との交流－」のテーマのもと開催されました。梅雨が明け、眩しいばかりの夏の日差しを受けてとても暑い日となりましたが、全国から約1000名の看護職や大学教員等の参加があり、どの会場も活気あふれる討論がなされていました。

一般公開フォーラム「認知症の人とともにつくるまちづくり」では、富士宮市在住の認知症をもつ当事者と奥様、地域の保健師をお招きしご講演いただきました。発症後様々な苦難を乗り越え、ボランティアや講演などを行い、毎日を大切に過ごされている様子について、また、富士宮市の取り組みについてお話しいただきました。

当事者からの語りは、参加者に深く響き、「認知症の人とともにつくるまちづくり」を参加者全員で考えることができる講演となりました。

学術集会にご参加されましたみなさま、関係各位に感謝申し上げます。

日本老年看護学会第17回学術集会事務局



### オープンキャンパス

オープンキャンパス2012が7月21日(土)に開催されました。朝方は雲っていた空も晴れ、高校生とその保護者ら約380名の参加があり、大学内は多くの参加者や在学生で賑わい、盛況のうちに終えることができました。

最初に、講堂での大学概要・入試情報等の説明会を行った後、6つのテーマから参加者が選択した公開授業を講義室や看護実習室で受講していただきました。その後、看護学実習・フィールド実習・国際交流の紹介、施設見学、各看護実習室での看護学体験の企画に自由に参加していただきました。個別相談コーナーには、職員に入試や受験勉強対策、大学生活について多くの参加者が相談に訪れていました。学生交流コーナーでは、在学生が高校生の相談に真剣に耳を傾け笑顔でアドバイスしている姿がみられました。また、施設見学や看護学体験の会場でも、在学生が参加者と積極的に交流し和気あいあいとした雰囲気がありました。アンケートによる参加者からの声は「在学生にいっぱい相談できて、進路の参考になった。」「優しい在学生の皆さんとたくさん交流ができ、オープンキャンパスに来て良かった。」など概ね、良好でした。このオープンキャンパスが参加者の皆さまにとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多くの方々へ本学への進学を志していただけることを期待しています。



広報委員会 加藤 亜妃子

### 2012年度からのカリキュラム改正について

2009年に保健師助産師看護師法が改正され、保健師教育課程の修業年限が半年から1年以上に延長され、これを受けて2011年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正された。保健師の役割や専門性をより明確にするための主な改正内容は、科目名称の変更、保健師活動の対象を「個人・家族・集団」に加え「組織」を入れるとともに、健康危機管理能力や地域ケアをシステム化・施策化する能力等を強化するための講義や実習の単位数を増加することである。保健師教育課程は現在、学部教育の中で看護師教育課程とともに全員に行われているが、このような修業年限と単位数の増加により学部教育がより一層過密化する可能性があり、保健師教育を「選択制にすること」や「大学院教育として行うこと」への変更についても検討を迫られることとなった。

本学では、2009年度から保健師教育課程検討委員会を立ち上げ検討し、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護診断論等の教育内容を整理・統合・強化したり、地域ケアシステム論を必修とした。また、公衆衛生看護学実習において企業等の健康管理実習を新たに設け、1単位増加とした。本学は開学から保健・医療・福祉の広い視野をもった看護職者の育成をめざしており、そのためには看護師教育課程と保健師教育課程を学部で行うことが重要と考えられる。今回、保健師教育課程以外の科目についても同時に精査し、最終的に卒業要件単位数をこれまでより1単位増の129単位に留めた。このカリキュラムは、2012年度入学生から適応されている。

教務委員長 西村 真実子



## 第9期卒業生に聞く

### 看護師として就職して



私の将来の夢は幼少の頃から看護師でした。また、子供が非常に好きだったことから小児看護への興味を抱いていました。そして、小児看護実習を終え、小児看護への興味はさらに増し、専門的な小児看護を提供する小児専門病院で勤務したいという気持ちが膨らんでいきました。県内には小児看護専門病院がない為、全国の小児専門病院の資料請求をし、就職説明会や病院見学、インターンシップに参加し、千葉県こども病院を受験することを決心しました。

実際に就職し、私は循環器内科・心臓血管外科・整形外科の病棟に配属されました。高度な医療が行われる病院で先天性の心疾患を患う児を前にし、自分の知識・技術の無さから、不安と重い責任に押しつぶされそうになる日もあります。しかし、高い知識・技術を携えた先輩方の手厚いフォローと、児の何にも代えられない笑顔に支えられ、毎日自分の成長に繋がる学びに溢れています。在校生の皆さん、多忙な日々かもしれませんが、将来の選択は自分自身で納得できるまでしっかり迷って決断してください。それが、就職後、自分を成長させるための意欲へと繋がると思います。遠くから応援しています。  
千葉県こども病院 奥村 麻由



私は超急性期看護と心臓疾患に興味があり、国立循環器病研究センターに就職し、現在はICU病棟の看護師として働いています。毎日とても忙しく大変ですが、とても充実した日々を送っています。

私の病院は循環器専門病院であるため、特に重症度の高い患者さんが入院されており、急変されることも少なくなく、看護師の観察力や根拠にもとづいたアセスメントが大きく求められる現場であると実感しています。わからないことも多いですが、やさしく親切な先輩方にフォローしてもらいながら頑張っています。ICUには10人の新人が配属されており、同期で勉強会を開催するなど協力しながら知識を深めています。

就職後4ヶ月が経ち、少しずつですが一人でできることも増えてきており、一步一步成長できているのではないかと思います。これからも頑張っていこうと思います。  
国立循環器病研究センター 加藤 佑衣



私は以前より災害看護に興味があり、災害看護に力を入れている病院への就職を考えました。そこで、石川県の災害基幹病院である県立中央病院に就職しました。現在は脳神経外科で先輩方の熱心な指導を受けながら、看護の知識や技術、急変時の対応などを学んでいます。日々新しい事の連続で、時には挫けそうになることもありますが、私はどんな時も患者様に近づこうとする姿勢を心掛けています。その中で、患者様に「ありがとう」と言われた時は看護師という仕事にやりがいを感じます。そして就職して思うことは、患者様の命を預かる者として、専門的な知識や根拠を持って看護を行うことがいかに重要かということです。またそのためには、大学の講義や国家試験の勉強で培った知識はとても重要になってくるということを実感しています。みなさんも勉強や実習と大変だと思いますが、夢に向かってお互い頑張っていきましょう！

石川県立中央病院 松崎 夢子



就職して3ヶ月が経ちます。現在は糖尿病・内科のチームで働いています。まだまだ分からないことだらけですが、周りの先輩方のフォローのおかげで日々少しずつ出来るが増えているのを実感します。何人もの患者さんを受け持つことで思うように仕事が進まないこともあります。患者さんが何を必要としているのかということを実感しながら業務に取り組むようにしており、大学で教わった患者さんの立場になって考えるということの難しさを改めて実感しています。就職したことで責任感を大きく感じています。私達は患者さんの命を預かっている身分であり、確かな技術と知識が必要だと思います。私も1日でも早く先輩方のように1人前になれるよう日々努力したいと思います。

金沢社会保険病院 中山 春奈



私は慢性期の実習で患者さんと時間をかけて関わっていく内に患者さんの興味のあることを惹き出すことができ、笑顔を見られたことにやりがいを感じました。そのため、患者さんとじっくり関わることの出来る病院への就職を考えていました。その後は、興味を持った病院の見学会やインターンシップに参加したり、実際にその病院で働いている先輩方から話を聞いたりして就職先を決めていきました。現在は脳神経外科に配属され、急性期から回復期の段階まで関わることのできる科で忙しいながらも充実した日々を送っています。

実際に就職してみて、患者さんの命を預かる立場として仕事に責任を持って取り組まなければならないということを改めて実感します。学校で学んだことが全てではなく、就職してからも学ぶべきことはたくさんあり、そんな私に先輩方は優しく、時には厳しく指導してください。私もそのような先輩方に少しでも近付けるように日々、知識と技術を向上出来るよう頑張っています。

金沢社会保険病院 北 愛弓

### 助産学専攻科に進学して



私は以前から子どもが好きで、将来は子どもと関わる仕事に就きたいと思っており、大学入学当初から助産師という仕事に興味を持っていました。実習で分娩に立ち会ったことで、命が誕生するという感動的で神秘的な場で助産師として働きたいという思いが強くなり助産師を志すことになりました。4年生になってからは、周りの友達は就職先の内定をもらい、国家試験の勉強や卒業研究を進めている中で、進学のための受験勉強をすることはとても辛く、もし志望校に合格できなかったらどうしようととても不安でした。しかし、先生方に励ましてもらい、周りの友達に話を聞いてもらいながら、勉強を続けることができました。助産学専攻科では7月から実習が始まり、分娩介助も行っています。お産はなかなか教科書通りには進まず、臨機応変な行動が求められるためとても大変ですが、産婦さんに満足なお産だったと思ってもらえるように頑張っていきたいと思っています。

和歌山県立医科大学 助産学専攻科 西村 未来

### 養護教諭特別科に進学して



私は現在、新潟大学養護教諭特別科で養護教諭の勉強をしています。私が別科の進路を決めたのは4年の春でした。看護大学での勉強や実習を通して生活習慣病について学び、子どもの時から正しい生活習慣を身につけることの大切さを実感しました。また、子どもが好きだったことや家族の支援も行っていきたいという思いがあり、養護教諭という仕事に興味を持ちました。4年の夏以降は、国家試験の勉強と共に、別科進学を目指す仲間たちと一緒に勉強してきました。

今は新潟の新しい地で新しい仲間たちと一緒に授業を受けながら、教育実習や教員採用試験などを通してとても楽しく充実した日々を送っています。特に、教育実習では実際に子どもたちと関わることで、養護教諭への憧れがより強くなりました。子どもたちの生涯の健康と安全を守ることができるよう頑張ります。学生のみなさんも自分の目標や憧れに向かって頑張ってください。

新潟大学 養護教諭特別科 山口 沙織

## キャンパスライフ

### フィールド実習（第Ⅰ段階実習）

私はフィールド実習の授業で「キッチンクラブおしみず」に行きました。私が障害者の方と共に作業させていただいたことは、クッキーの生地作りと型抜きでした。みなさんは互いに名前を呼び、助け合い、てきぱきと行動していました。できないことがあっても互いに助け合い、困難を乗り越えていく姿に、私は多くのことを学びました。

自分がたとえ困難な立場にあっても、誰かの助けがあれば乗り越えられるということをおこの実習を通じて学ぶことができました。将来、看護師として働く上で私のできることは、患者さんが一日でも早く健康であったときの生活に戻っていただけるように支援し、最終的には自立してもらうように働きかけることであると考えます。そのためには、患者さんが求めていることを理解し、そのニーズに応えようと努力することが重要であると考えます。フィールド実習を入学直後の時期に行えたことは、自分にとってとても貴重な機会になったと思います。

1年 新田 大貴

### 小児看護学実習Ⅰ（第Ⅳ段階実習）



私は4日間小学校で有意義な実習ができました。2年生後期の小児看護学概論で学んだ学童期の身体的・心理的・社会性の特徴などの知識を踏まえての実習だったので、実際に児童と関わることで、知識と実際とが結びつきました。私は1年生のクラスで実習させていただき、多くのことを感じました。例えば友達のことを気遣って「大丈夫?」と声をかけ、言われた子も「ありがとう」と返事をしている光景を何度も見ました。児童はこのような相互作用の中で他者を思う気持ちを育んでいるのだと思いました。また、みかんのへたを「緑の帽子」と表現する等、私には思い浮かばない発想や表現をしており、そんな表現が出来るのが素敵だと感じました。このように児童は学校生活を通して、思いやりの心を育てたり物の概念について理解したり、多くのことを学んでいると、身を持って体験することができました。そして、1人1人の特徴を見つづ学童期という全体もとらえながら関わっていくことが大切だと思いました。今回の実習で素敵な児童たちに出会うことができた嬉しさを忘れずに、実習での学びを今後活かせるよう学習を深めていきたいと思っています。

3年 大塚 那月

### 統合実習B（第Ⅴ段階実習）



統合実習Bは外来での実習でしたので、病気をもちながら地域で暮らす人々を支える医療チームの働きや、外来看護師の患者への関わり方について学ぶことができました。

私が実習を行った総合診療科は、多くの初診患者さんが受診され、医療スタッフもとても忙しく、最初は患者との関わりが事務的に行われているようにも見えました。しかし、看護師さんは短時間の関わりの中でもアンテナを張って、優先順位を決定しながら患者さんに必要な援助を行っており、外来には看護のすべてが詰まっている!と感じました。

また、外来は病院の印象をつける場所であり、今後も病院に通おう、治療を続けようと思えるかどうかの決め手となる場所でもあると思いました。そのような場所での医療スタッフの的確な関わりは、初めて来る患者さんの不安をやわらげ、安心して療養生活を送ることにつながるということを実感できました。将来は外来でも働いてみたいと思え、新たに視野も広がった、有意義な実習となりました。

4年 巧 郁衣

## サークルの紹介

### HSC (Health Support Club) サークル



バーベキュー交流会の様子

2011年度から本学は能登町と連携して「来人喜人プロジェクト」を実施し、能登町において健康づくりのイベントや朝ごはんのレシピコンテストなどを行ってきました。これらの活動を受けて、今年の春に学生間で立ち上げられたのがHSCサークルです。メンバーは学生17名で、学内の先生方も活動に携わっています。

今年度は、昨年度行われた朝ごはんコンテストのレシピ集作りのほか、能登町音頭を元に考案された能登町音頭エクササイズの普及活動を進めていく予定です。また秋に能登町で開催される「猿鬼歩こう走ろう健康大会」に参加し、地域の方々と交流を深めたいと思っています。

サークル活動を通して地域の方々の暮らしや文化を学び、看護を生活面から支える視点を養いたいと思います。同時に、地域の方々が楽しみながら健康について理解を深められるように活動を進めていきたいです。

1年 松井 久美

### ボランティアサークル



#### 海上保安部長表彰を受けました

ボランティアサークルは、平成14年から現在まで、毎年夏季に海岸清掃・漂着ゴミ調査ボランティアを行ってきました。その長く継続した活動が認められ、先日、金沢海上保安部から表彰を受けました。これからも継続していきたいと思っています。



## 第13回看護大学祭のお知らせ

### 「Can-Do ! We CAN give you ∞ CAN-DO @ CAN-DAI」

第13回石川県立看護大学大学祭を10月27日(土)・28日(日)に開催いたします。

今年のコンセプトは、「大学祭に来ていただいた人に感動を与える！」と「私たちが持つ無限大の可能性をわかってもらおう！」の2つです。テーマは「Can-Do ! We CAN give you ∞ CAN-DO @ CAN-DAI」です。現在、いろいろな世代の方が大学祭を楽しむことができ、特に若い世代の方にはかほく市高松のことや看護の素晴らしさを知っていただけるような大学祭にするため、多くの企画の準備を進めています。

企画の内容は、講演会、模擬店、献血、お化け屋敷、カラオケ大会、バンド演奏、ミスコン、ダンス、子どもの部屋、フリーマーケット、スタンプラリー、プラスバンド演奏、県看ドッグなどを予定しています。カラオケ大会は現在出演者募集中ですので、出演希望の方はお気軽にお申し出ください。ほか、各種サークルの企画もあります。

講演会は、シンガーソングライターのう～みさんをお招きして、「～音楽は魔法だ！～あなたに会えてよかった」をテーマに、体験に基づくトークと思いのこもった歌で中身の詰まった90分をお届けします。

お子様からご高齢の方まで多くの方に参加していただき、大学祭を盛り上げていきたいと思っておりますので、ご家族・お友達をお誘いあわせのうえ、是非ご来学ください。

**【日 程】** 2012年10月27日(土) 9:00～18:30  
10月28日(日) 9:00～15:00

#### 講演演題

臍帯血は命のお母さんです  
～新しい生命がもうひとつの生命を救う～

#### 講師

NPO法人 臍帯血国際患者支援の会  
理事長 有田 美智世

#### 日時

10月27日(土) 15:00～16:30

#### 場所

石川県立看護大学 大講義室

#### 講演演題

～音楽は魔法だ！～  
あなたに会えてよかった

#### 講師

う～み  
(シンガーソングライター)

#### 日時

10月28日(日) 13:00～14:30

#### 場所

石川県立看護大学 講堂



## 大学院紹介

### 博士前期課程(修士)：老年看護学分野、博士後期課程(博士)：実践看護科学Ⅲ(高齢者)

知性(エス)は生命が妨げられた時に生まれ、知性(エス)の形成は我々に降りかかる快も不快も全部ひっくるめて受容する中で生じる  
(ヴァイツゼッカー)

「生命が妨げられる」実感が最も強いのは老年期の人々。「快も不快もひっくるめて受容できる」のも老年期の人々。では老年期の人々の知性(エス)とは一体どれ程なのか?こんな飽くなき関心と共に、加齢に伴う不快への看護を探究する老年看護学研究科は、ひとえに楽しい(筈)。

その楽しさを満喫した(している)のは、老人専門看護師(CNS)3名を含む修士12名と博士1名。いずれも「計画書指導で号泣、あとで笑う！」のジンクスを体験し、逞しい。教員は6名。教授2名と講師が指導にあたり助教、助手が支える。教員は厳しめ、優しめ、盛り上げめとパワフルで研究も様々だが、「いざ！」の時の団結力には定評がある(写真1)。

誇るべきは、本学歴代教授の天津先生と故佐藤先生から引き継ぎ78回を越えた“高齢者事例検討会”。CNS、認定看護師、ケアマネージャ、施設長など多様な参加者が自由闊達に意見交換し、大学院生の現場息吹を忘れない為の学びの場となっている(写真2)。皆様「(いつでも)叩けよ、されば開かれん！」

教授 高山 成子



写真1



写真2

## 地域ケア総合センターから

こんにちは、地域ケア総合センターです。今回は、地域連携・貢献に関する活動についてご紹介します。大きくは2つの活動を行っています。

1つめは地域連携事業として県内の市町村や特定の地域の方々と看護大学の学生・教職員が連携を図り、その地域の特徴を生かしながらのまちづくりを教育研究活動を通して支援する取り組みです。平成23年度には、能登町との連携事業「来入喜人里創り創成プロジェクト」が石川県の助成金募集に応募して採択されました。“きときとレシピコンテスト”や“能登町音頭エクササイズ”の考案等を通して地元の健康づくりを支援しています。また、かほく市との連携事業「かほく市発ヘルスプロモーション」では、学生が住民の方々の体力調査、骨密度の測定等を実施して、健康増進につながるプログラムを推進しています。

2つめは生涯学習支援事業です。その中の代表として住民のみなさま向けの公開フォーラムを開催します。平成24年度は12月1日（土）に「まちづくりと地域の健康」のテーマで食生活の観点から健康を支援するイベントを予定しております。地産地消の食材で看護大学考案の健康弁当等の販売にもつながると良いと願っております。多数、ご参加下さい。

地域ケア総合センター長 川島 和代

## 図書館より

附属図書館は、地域に開かれた大学を目指すという大学の理念を生かし、図書館活動を行っています。その大きな特徴として、卒業生はもちろんのこと、地域住民の方々や、県内外の医療関係者等に図書館を開放し、図書の貸出し、医中誌 Wed 等のデータベース利用や利用案内、文献検索の方法についてご案内しています。

今後またたくさんの方にご利用いただくために、最新の医療・看護情報を検索できるよう「SciVerse ScienceDirect - Nursing and Health Professions」(Elsevier 社)を新たに契約しました。また、「医中誌 Web」の同時アクセス数を増やし、図書館の情報環境の改善に努めています。さらに、本学卒業生に対する文献のとり寄せも可能となりました。

図書館は開放的で明るく、本学の卒業生がお子さんと一緒に図書館を利用する様子は地域に溶け込む図書館を象徴する、ほほえましい光景がみられます。

多くの方にご利用いただけるように努力していきたいと考えています。今後とも図書館に対してご支援等よろしくお願い致します。

図書館長 丸岡 直子



附属図書館スタッフ

(左から 林司書・丸岡図書館長・山本司書・田中司書)

## 犯罪被害者支援自動販売機が設置されました

6月に犯罪被害者支援自動販売機が教育研究棟センターホールと厚生棟に設置されました。これは石川被害者サポートセンターと飲料水メーカーにより設置され、飲料水メーカーが売上金の5%を犯罪被害者支援のための資金としてサポートセンターに寄付します。来学の際にはぜひご利用ください。



厚生棟に設置された自販機



センターホールに設置された自販機

## キャンパススケジュール 2012年度 後期

### 後 期

授業開始	10月 1日(月)
履修登録受付	9月 20日(木)～10月 5日(金)
大学祭(看大祭)	10月 27日(土)～10月 28日(日)
冬季休業	12月 25日(火)～1月 4日(金)
大学入試センター試験準備日	1月 18日(金)
補講・試験	2月 12日(火)～2月 21日(木)
春季休業	2月 22日(金)～3月 31日(日)
卒業式・学位授与式	3月 16日(土) 予定